

## ベストクラス選定理由書

作成者：佐伯結衣、有本夏緒、黒川真優、中牟田若葉、大谷真司、藪内里奈、小林雄一郎、塩晃、山中一英

科目名称 : クラスセミナーⅢ (Kクラス)		(担当教員名 : 小川 修史)
課程 : 学部	開講時期 : 前期	
授業形態 : 演習	授業規模 : 30人以下	
インタビュー対象教員名 : 小川 修史 (実施日時 : 令和4年8月31日(水) 14:50~15:40 ; 実施場所 : オンライン)		
インタビュー対象受講者名 : 嶋本 咲紀 (実施日時 : 令和4年8月31日(水) 14:50~15:40 ; 実施場所 : オンライン)		
<b>選定理由</b> 本授業は、それまでのクラスセミナーⅠ・Ⅱの学びをふまえ、学生自らが教育に関する事象から問題を発見して課題を設定し、その解決に向けて探求する中で必要な思考力・判断力・表現力を高めることをねらいとするものである。 授業評価での自由記述ならびに教員と受講者へのインタビュー調査から、このねらいを達成すべく効果的な取組が実践され、受講者もそこに積極的に関与した様子うかがえた。  1. ゲストティーチャーとの協働的な授業の展開 本授業の特筆すべき特徴は、様々な業界で活躍している方々をゲストティーチャーとして招聘し、そのレクチャを通して、実りある学びにつながる多様な視座を受講者に提供したことであった。そのねらいについて担当教員からは、「受講者に『探求しなさい』と指示するのではなく、受講者自らが『主体的に探究できる仕組み』を作りたかった」という主意の語りを得た。インタビューでの受講者の語りや「これまで気づかなかった新たな視点が得られた」「新たな考え方を取り入れることができた」といった授業評価での自由記述からは、担当教員のこの企図が受講者のなかで結実している様子うかがえた。また、現に活躍中の方々をゲストティーチャーとして招く試みは、対面ではおそらく実現しえなかったことであろう。その意味において本授業は、オンラインの特性を最大限に活かした、授業をゲストティーチャーと協働的に展開することへの可能性を拓くものといえよう。  2. 受講者の積極的な関与と学ぶ喜び 印象的だったのは、インタビューを通して受講者が、この授業がいかにためになるものであったのか、私たちにいきいきと語ったことであった。そこには、普段ではなかなか出会うことのないゲストティーチャーと対話できることの喜び、そしてそれがもたらす知的な高揚などをみてとることができた。その過程にあっては、オンラインでやりとりすることの難しさを熟知したうえで、チャットや各種スタンプを有効に活用するといった担当教員の細やかな配慮があったことを忘れてはならない。さらには、教員と受講者が適度な距離感でコミュニケーションを重ねており、互いに敬意をもちながら授業を一緒に作っている様子うかがえた。 以上のことから、本授業を令和4年度「ベストクラス」として推薦する。		